

第4号様式（第10条関係）

会 議 録 （要 旨）

会 議 名	第3回武蔵村山市在宅医療・介護連携推進協議会
開 催 日 時	平成30年1月24日（水） 19時30分 ～20時45分
開 催 場 所	市民総合センター3階 小会議室
出 席 者 及 び 欠 席 者	出席者：下田委員、小関委員、小山委員、宇津木委員、堀尾委員、高佐委員、柳川委員、新井委員、五十嵐委員、山岸委員、宮沢委員、鹿取委員、佐藤（千）委員、内田委員、高齢・障害担当部長、高齢福祉課長、管理グループ主査、管理グループ主任、高齢福祉グループ主査、高齢福祉グループ主任 欠席者：佐藤（大）委員、河西委員 傍聴者：0名
議 題	報告事項1 平成29年度第2回会議録について 報告事項2 多職種研修会の実施について 報告事項3 その他 議 題1 在宅療養ハンドブックの作成について 議 題2 在宅医療・介護連携推進に当たっての課題について 議 題3 その他
結 論 (決定した方針、残された問題点、保留事項等を記載する。)	在宅療養ハンドブックについて、委員からの意見を反映後は事務局に一任することとなった。 在宅医療・介護連携推進に当たっての課題は、近隣区市町村との連携が図れていないということとなった。 協議会の下部組織として、作業部会を組織し、事務局を在宅医療・介護連携支援センターが行うこととなった。
審 議 経 過 (主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめる。)	開 会 《報告事項1 平成29年度第2回会議録について》 事務局：説明 委 員：質疑なし 《報告事項2 多職種研修会の実施について》 事務局：説明 委 員：質疑なし 《報告事項3 その他》 事務局：特になし 委 員：質疑なし 《議題1 在宅療養ハンドブックの作成について》 事務局：前回作成した内容について、ICT部会での意見等の反映を行った。内容等について意見をいただきたい。

委員：P.13 ケアマネジャーの説明の中に「要介護と認定された方の」という表記があるが、要支援者も在宅療養を行うことがあるので、正確にするならば入れたほうが良いのでは。

委員：文章量を少なくし、わかりやすい記載を第一に考えて作成した。普及啓発を目的としているので、あえて削った部分はある。

委員：わかりやすくするのであれば、記載しないほうが良い。

会長：要支援についての記載は入れないこととする。

委員：P.9 地域包括支援センターの休業日に日曜日の記載がない。

会長：正しいものに修正を行う。

委員：作成したハンドブックはホームページ等からダウンロードできるようにするのか。

事務局：そのように考えている。

委員：P.19 問い合わせ先に在宅医療・介護連携支援センターが記載されているが、ハンドブックには一切出てきていない。市民からの直接相談を受け付けていないので、ここに載せるべきか。また、地域包括支援センターの案内表現を柔らかい表現にしたほうが良いのでは。

事務局：在宅医療・介護連携支援センターは連携の核となるものと考えているので、ハンドブックに載せたいと考えている。

委員：在宅医療・介護連携支援センターに市民から相談があったとしても地域包括支援センターに繋げることはできない。連携支援センターの連絡先を記載するのなら一言必要である。

委員：「このパンフレットについての」という文言を足せば良いと思う。

会長：そのように修正を行う。

《議題2 在宅医療・介護連携推進に当たっての課題について》

事務局：次年度はインターネット上でマップを作成していきたいと考えている。また、MCSは継続の予定である。今後、優先的に取り組む事業等を議論していただきたい。

委員：病院には武蔵村山市との市境に住んでいる立川市の方も来院する。そういう方に関して連携を行うのは難しい。他市とも連携してほしい。

委員：市内の医療機関とはMCSで繋がっているが、他市の医療機関とは繋がりが無い。MCSで繋がれば便利である。

委員：資源マップを立川市と共同で作成するという話があるが、他市と連携するのは一朝一夕ではできない。まずは土壌づくりが必要と考える。立川市は規模が大きいのでどうしても動きが遅い。規模が近い東大和市や昭島市の方がやりやすいのでは。

委員：東大和市はやっとICT導入を始めたところであるが、違うシステムを使用しているため、MCSを使用した連携はできない。

委員：ICTの話が出たので、ICT分科会の今後について協議したい。どのようにしていくのか。

事務局：医療介護連携を推進していく上で分科会を続けるのは必要である。また、多職種研修会や在宅療養ハンドブックなど作業部会が必要と考えている。メンバーの整理を行い、続けていきたい。また、市が主体として行うのか、在宅医療・介護連携支援センターが主体となるのかも協議してほしい。

委員：この協議会では部会を作るかどうかを決める。部会の事務局は連携支援センターにする、ということで良いのではないかと。

委員：連携支援センターが事務局となるのは適していると思うが、現在

	<p>人員が少ないので心配である。委員の協力と部会に必ず行政担当者が出席してもらえれば可能かと思う。</p> <p>事務局：協力体制の中で行っていきたい。</p> <p>委員：それでは作業部会を作るといって良いか。</p> <p>委員：異議なし。</p> <p>委員：来年度の協議会の方向性は今回で決めなければ。協議会の開催回数や多職種研修会は何回行うのか等を決める必要があるのでは。</p> <p>事務局：大きなテーマは協議会で決定し、実際の作業は部会で行う。</p> <p>委員：来年度の研修会の予算は何回分あるのか。</p> <p>事務局：2回分で計上している。</p> <p>委員：次回のテーマを先に決めておいた方が良いのでは。医療職や介護職、民生委員を対象とするのか等も決める必要がある。</p> <p>事務局：誰を対象とするかは特に決めていない。</p> <p>委員：この場で対象者を決めるのはきりが無い。</p> <p>委員：研修会の時期だけでも決めた方がよい。</p> <p>事務局：上期、下期に1回ずつできればと考えている。</p> <p>委員：部会の活動は今年度あるのか。</p> <p>委員：行政との打ち合わせが必要であり、できないと思う。</p> <p>《議題3 その他》</p> <p>会長：委員から何かあるか。</p> <p>委員：特になし。</p> <p>会長：事務局から何かあるか。</p> <p>事務局：次回の協議会は4月末～5月連休明けを予定している。日にちについては別途協議とさせていただきたい。</p> <p>会長：日程については別途協議で良いか。また、在宅療養ハンドブックの修正については事務局一任として良いか。</p> <p>委員：異議なし。</p> <p>会長：次回の研修会について、仮に9月開催とすると次回の協議会でテーマを決めなければならない。各委員についてはテーマを考えてくること。</p> <p>終了</p>
--	---

会議の公開・非公開の別	<p>■公開 傍聴者： _____ 0人</p> <p><input type="checkbox"/>一部公開</p> <p><input type="checkbox"/>非公開</p> <p>※一部公開又は非公開とした理由</p> <p style="font-size: 2em;">()</p>
-------------	--

会議録の開示・非開示の別	<p>■開示</p> <p><input type="checkbox"/>一部開示（根拠法令等： _____）</p> <p><input type="checkbox"/>非開示（根拠法令等： _____）</p>
--------------	---

庶務担当課	健康福祉部高齢福祉課（内線：632）
-------	--------------------